ONKYO®

INTEC
COMPONENT WORLD

USBデジタルオーディオプロセッサー

UE-155
取扱説明書

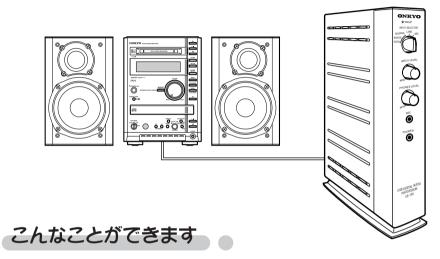
お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

目　次

特長

本機は、パソコンサウンドを、本格的な音質でお楽しみいただけるデジタルオーディオプロセッサーです。
本機がパソコンとオーディオ機器を仲介して、フレキシブルな再生/録音を可能にします。
本機をオンキヨー製CD/MDチューナーアンプFR-155A/155と組み合わせ、パソコンの音楽ファイルをオーディオ品質で楽しむことができます。またパソコンの音楽ファイルをMDに録音することもできます。

■USB と多彩な入出力端子を装備して、パソコンとオーディオの世界をつなぎます
■ノイズを徹底的に低減する、独自のオーディオ回路設計

こんなことができます

●パソコン内の音楽ファイルを再生
● CD-ROM ドライブの音楽 CD を再生
●音楽 CD や MD などのデジタルサウンドをパソコンに録音
●カセットテープやレコードなどのアナログサウンドをパソコンに録音
●パソコン内の音楽ファイルを MD などのデジタル機器に録音

用語解説

USB (Universal Serial Bus)とは?
低中速の通信に適した、パソコンのインターフェイス規格の一種です。最大127台の周辺機器を接続可能で、プラグ&プレイに対応しています。

目次

オーディオ機器の正しい使い方

オーディオ機器を安全にお使いいただくために必ずお読みください

ご使用の前に

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味はつぎのようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な指示内容が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにUSBケーブルをはずし、ACアダプターをお使いの場合は、ACアダプターをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店または当社カスタマーグループに修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーは外さない、改造しない

分解禁止

●本機の裏ぶた、カバーは絶対に外さないでください。内部の点検・整備・修理は販売店または当社カスタマーグループに依頼してください。

●本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■100V以外の電圧で使用しない

●本機を使用できるのは日本国内のみです。

●ACアダプターをお使いになる場合は、表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

●本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースに通風孔があけてあります。次の点に気を付けてご使用ください。

●本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。

●テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。

■ 水のかかるところに置かない

●風呂場では使用しないでください。火災や感電の原因となります。

●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると火災や感電の原因となります。

⚠警告

■ 水の入った容器を置かない

●本機の上に、花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

●本機の通風孔から金属類や燃えやすいものなどを差し込まないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、USBケーブルをはずし、ACアダプターをお使いの場合は、ACアダプターをコンセントからぬて販売店または当社カスタマーグループにご連絡ください。

■ ACアダプターのコードを傷つけたり、加工しない

●ACアダプターのコードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店または当社カスタマーグループに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●ACアダプターのコードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重いものを載せてしまうことがあります。

●ACアダプターのコードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

●万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。USBケーブルをはずし、ACアダプターをお使いの場合は、ACアダプターをコンセントから抜き、必ず販売店または当社カスタマーグループにご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

●雷が鳴り出したら、製品本体やACアダプターには触れないでください。感電の原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

●強度の足りない台や、ぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

●本機を他のオーディオ機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は、指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

●本機に乗ったり、ふんだりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

●ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

■ ACアダプターをお使いの場合の注意

●ACアダプターを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて火災・感電の原因となることがあります。

●ぬれた手でACアダプターを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

●ACアダプターを抜くときは、コードを引っぱらないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ず、ACアダプターを持って抜いてください。

●ACアダプターのコードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

⚠注意

■ ACアダプターをお使いの場合の注意（つづき）

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ずACアダプターをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

●移動させる場合は、USBケーブルをはずし、ACアダプターをお使いの場合は、必ずACアダプターをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードをはずしてから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

●お手入れの際は、安全のためUSBケーブルをはずし、ACアダプターをお使いの場合は、ACアダプターをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

●使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。最寄りの販売店または当社カスタマーグループにご相談ください。本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店または当社カスタマーグループにご相談ください。

●電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

●シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

●表面の汚れは中性洗剤を薄めた液に布を浸し、固く絞って拭きとった後、乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

付属品

■ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。(　)内の数字は数量を表しています。

● オーディオ用ピンコード(1)

● 光デジタルケーブル(1)

●USBケーブル(1)

● CD-ROM(1)

●取扱説明書［本書］（1）
●CarryOn Music取扱説明書（1）
●保証書（1）

お知らせ

本機の電源はUSBケーブルを通してパソコンから供給されます。ACアダプターは付属されません。

お使いになる前に

下記の注意事項をお読みいただき、正しくお使いください。

- 本書は、マウスやキーボードの使用方法など、Windows または MacOS の基本的な操作についてすでにご存知であることを前提に書かれています。
- 本製品を運用した結果の影響については一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、誤操作、不具合により生じた損害などの純粋経済損失については、その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、将来、予告なく変更されることがあります。
- 本書の一部または全部を無断で貸し出し、転載することは固くお断りします。
- WAVIO Sound Engine、CarryOn Musicの名称およびロゴはオンキヨー株式会社の登録商標です。
- DigiOn、DigiOnSound の名称およびロゴは株式会社デジオンの商標です。
- BIAS、Peak LE は、米国 BIAS 社の登録商標です。
- 本書に記載されているハードウェアおよびソフトウェアの名称は、各社の商標もしくは登録商標です。

付属CD-ROMを開封される前に

本製品に含まれているソフトウェアをセットアップ（インストール）する前に必ずお読みください。
本製品に含まれているソフトウェアをセットアップ（インストール）すると、本契約の内容を承諾したことになります。本契約の内容に同意できない場合は、ソフトウェアのセットアップ（インストール）を行わないでください。

使用許諾契約書

本使用許諾契約書（以下、本契約書）は、オンキヨー株式会社（以下、弊社）が提供するソフトウェアと、それに付属するマニュアルなどの印刷された資料に関する使用条件を定めるものです。

第1条（定義）

1. 「本ソフトウェア」とは、本契約書とともに提供されるソフトウェア（製品名「CarryOn Music」ライセンス数1）、フォント、チュートリアルファイル、ヘルプファイルなどの使用方法を説明したデータなどデジタル情報の一部または全部を指します。なお、本ソフトウェアに含まれる第三者の著作権に関しても、本契約書が適用されます。
2. 「関連資料」とは、本契約書とともに提供されるマニュアルなどの印刷された資料を指します。
3. 「お客様」とは、本契約とともに提供された本ソフトウェアを含む製品を購入し本契約書に同意いただいた個人または法人を指します。

第2条（使用条件）

1. お客様は、本ソフトウェアを1台のコンピュータにセットアップ（インストール）してご利用いただけます。
2. お客様のうち特定のただ一人が使用するコンピュータが複数ある場合には、本ソフトウェアを同時に使用しないという条件の下、特定の個人ただ一人が使用するコンピュータに限り複数セットアップすることができます。
3. 本契約書は、本ソフトウェアの不具合修正などの目的で改訂したソフトウェアに対しても適用されるものとします。ただし、改訂されたソフトウェアと改訂前のソフトウェアは同一のコンピュータにセットアップされている場合に限ります。

第3条（制限）

お客様は、下記の項目を行うことはできません。

1. 本契約書に定めのない、複数コンピュータのセットアップ（インストール）または複製（コピー）。
2. 関連資料の複製（コピー）。
3. 本ソフトウェアに含まれるプログラムの改変またはカスタマイズ、リバースエンジニアリング。
4. 本ソフトウェアの第三者への再配布、再使用許諾。
5. 本ソフトウェア（複製物を含む）の貸与（レンタル）、疑似レンタル、中古品としての販売、譲渡。
6. 本ソフトウェアをネットワークコンピュータやサーバーから第三者が複製またはダウンロードできる状態にしておくこと。

前項までの規定は、本ソフトウェアを改訂した製品をご購入した場合にも継続して適用されます。

第4条（保証範囲）

1. 弊社は、本ソフトウェアまたは関連製品に物理的な瑕疵がある場合、お客様がご購入後30日間に限り、弊社の判断に基づき交換いたします。ただし、地震、火災などの天災もしくは戦争による破損、または、お客様のご購入後の故意、過失、誤った使用によって生じた破損についてはこの限りではありません。
2. 弊社は、本ソフトウェアの機能がお客様の使用目的と適合することを保証するものではありません。弊社は、本製品の物理的瑕疵について保証するものであり、本ソフトウェアまたは関連資料の使用または使用不能から生ずる直接的または間接的被害については一切責任を負いません。
3. 弊社は、本ソフトウェアを使ってお客様が行ったいかなる行為についても、その責任を負いません。

第5条（期間）

1. 本契約は、本契約が成立した時点、すなわち本ソフトウェアをセットアップ（インストール）した時点に始まり、お客様が本ソフトウェアの使用を停止するまで有効とします。お客様は、本ソフトウェアの使用を停止した時点で、本ソフトウェアおよび関連資料の一切を破棄するものとします。
2. お客様が本契約書に違反した場合は、本契約を解除してお客様の本ソフトウェアの使用を停止させることができます。弊社が、本ソフトウェアの停止を通知した場合には、お客様は速やかに本ソフトウェアおよび関連製品の一切をお客様の費用負担で弊社に返却するものとします。

第6条（一般条項）

本契約書に関して生じた紛争については、大阪地方裁判所を第一審の管轄裁判所とします。

各部の名称

［　］内の数字は、Windowsの参照ページを表しています。
【　】内の数字は、Macの参照ページを表しています。

前面

① **動作確認インジケーター（UP）**
本機が動作中のときは点灯します。USBケーブルが接続されていないときや、パソコンの電源が切れているときは消灯します。

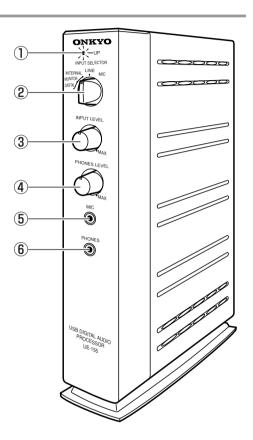
② **入力切り換えスイッチ（INPUT SELECTOR）**［24、25、40、42、44］【24、25、48、51、52】

③ **入力レベル調整つまみ（INPUT LEVEL）**［24、25、41］【24、25、49】

④ **ヘッドホンレベル調整つまみ（PHONES LEVEL）**

⑤ **マイク入力端子（MIC）**［22、24、40］【22、24、48】

⑥ **ヘッドホン端子（PHONES）**［22］【22】

後面

⑦ ライン入力端子（ANALOG LINE IN L/R）
［17、20］【17、20】

⑧ ライン出力端子（ANALOG LINE OUT L/R）
［17、20］【17、20】

⑨ DC IN 端子（DC IN 7.5V）
パソコンからの電源供給が充分でないときは、別売の専用ACアダプター（型番：AD-0002）を接続します。詳しくは、巻末記載の当社カスタマーグループにお問い合わせください。

⑩ デジタル入力切り換えスイッチ
（DIGITAL IN COAX/OPT）［17］【21】

⑪ USB 端子［アップポート］
（UP USB）［19］【19】

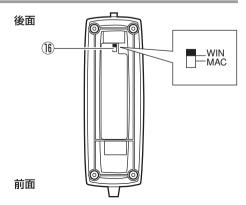
⑫ デジタル同軸入力端子
（DIGITAL COAXIAL IN）［21］【21】

⑬ デジタル同軸出力端子
（DIGITAL COAXIAL OUT）［21］【21】

⑭ デジタル光入力端子
（DIGITAL OPTICAL IN）［17］【21】

⑮ デジタル光出力端子
（DIGITAL OPTICAL OUT）［17］【21】

底面

⑯ Windows/Macintosh 切り換えスイッチ
（WIN/MAC）［18］【18】

接続の前に Win Mac

本機を Windows でお使いになる場合

●必要なシステム構成

· USB 端子を持つ Intel Pentium II 233 MHz 以上のパソコン
· 60 MB 以上のハードディスク空き容量
· 64 MB 以上の RAM
· CD-ROM ドライブ（または相当品）
· Windows98/98SE/2000/Me
· Intel 製 USB ホストコントローラ推奨

● Windows について

Windows 日本語版が現在の状態で正しく起動できることを確認してください。

● CD-ROM ドライブについて

USBデジタルオーディオプロセッサーをセットアップするためのソフトウェアは、Windowsシステム CD-ROM に収められています。Windows がプリインストールされていないパソコンなどの場合、ドライバのインストール時にWindowsのシステムCD-ROMが必要になる場合があります。（プリインストールモデルではあらかじめハードディスクに収められている場合がほとんどです。）セットアップの前にあらかじめ用意しておいてください。
また、本機を快適にご使用いただくためのアプリケーションソフトウェアは、付属のCD-ROM に収められています。これらのソフトウェアをインストールするためには CD-ROM ドライブが必要です。セットアップする前に CD-ROM ドライブが使用可能であることをご確認ください。

● BIOS の設定について

通常は、設定を変更する必要はありません。
パソコン購入後に、BIOS の設定を変更された方のみ、セットアップの前に、パソコン本体の BIOS の次の項目についてご確認ください。

- USB 機能を「使用する」に設定する。
- USB IRQ を「AUTO」もしくは使用可能な IRQ 番号に設定する。

上記の設定が正しくないと、本機が認識されず、正常に動作しない場合があります。

ご注意

パソコン本体、マザーボードによっては上記の設定項目がないものもあります。設定項目の有無や設定方法については、パソコン本体、マザーボードのマニュアルを参考にしてください。

必要動作環境を満たすパソコンであっても、パソコンシリーズ固有の設計仕様やお客様の使用環境の違いにより、本機の動作が正常に行なわれない機種があります。本製品の制限事項や動作確認情報についての詳細は巻末記載のホームページにてご確認ください。

本機を Macintosh でお使いになる場合

●必要なシステム構成

- iMac、iBook または標準で USB 端子を持つ PowerMacintosh および PowerBook シリーズ
- 60 MB 以上のハードディスク空き容量
- 64 MB 以上の RAM
- CD-ROM ドライブ（または相当品）
- MacOS 9.0.4+Multimedia Update J-1.0 以降

● MacOS について

MacOS 9.0.4 以降が現在の状態で正しく起動できることを確認してください。

※本機は MacOS 9.0 以前のシステムでは動作しません。現在ご使用のシステムソフトウェアが MacOS 9.0 の場合、MacOS 9.0.4+Multimedia Update J-1.0 以降へのアップデートが必要です。システムソフトウェアのアップデートについては、Macintosh本体の取扱説明書をご覧ください。

● CD-ROM ドライブについて

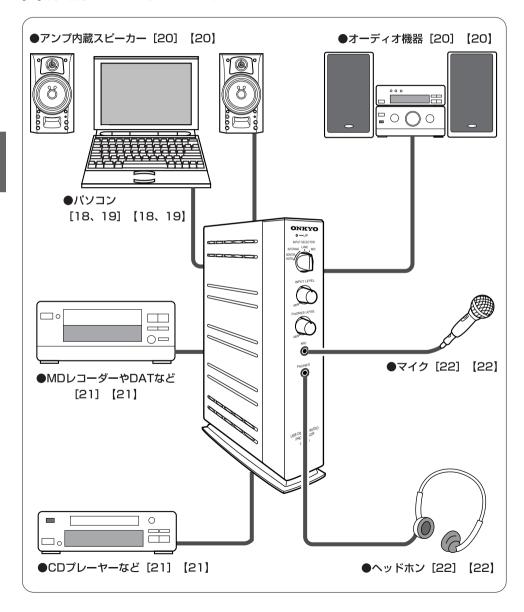
USBデジタルオーディオプロセッサーをセットアップするためのソフトウェアは、付属CD-ROMに収められているため、CD-ROM ドライブが必要です。セットアップする前に、CD-ROM ドライブが使用可能であることをご確認ください。

標準でUSB端子を持たないMacintoshはサポートの対象外です。パソコンボードなどによりUSB端子を増設している Macintosh については、正常に動作しない場合があります。

必要動作環境を満たすMacintoshであっても、シリーズ固有の設計仕様やお客様の使用環境の違いにより、本機の動作が正常に行なわれない機種があります。本製品の制限事項や動作確認情報についての詳細は巻末記載のホームページにてご確認ください。

接続する

本機を中心にした、オーディオシステムの接続例

［　］内の数字は、Windows の参照ページを表しています。
【　】内の数字は、Mac の参照ページを表しています。

オンキヨー製 CD/MD チューナーアンプ FR-155A/155 と接続する

ご注意

- すべての接続が終わってから電源を入れてください。
- オーディオ用ピンコードは奥までしっかり差し込んでください。接続が不完全だと雑音や動作不良の原因となります。
- オーディオ用ピンコードは赤いプラグをR側に、白いプラグをL側に接続してください。
- デジタル端子の接続は、オーディオ用光デジタルケーブルを使用してください。

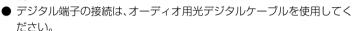
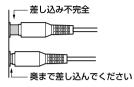
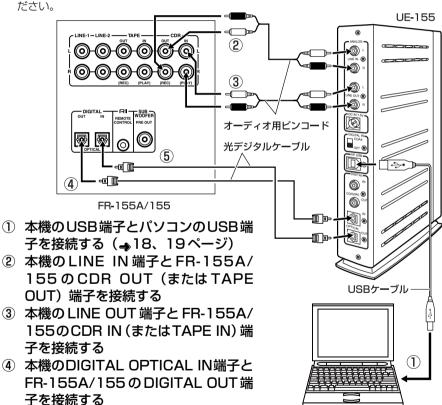
UE-155

オーディオ用ピンコード

光デジタルケーブル

FR-155A/155

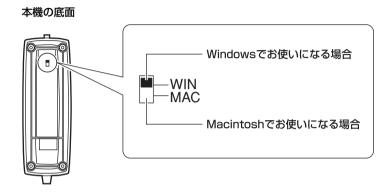
USBケーブル

パソコン

① 本機のUSB端子とパソコンのUSB端子を接続する（➔18、19ページ）
② 本機のLINE IN 端子とFR-155A/155 のCDR OUT（または TAPE OUT）端子を接続する
③ 本機のLINE OUT 端子とFR-155A/155のCDR IN（またはTAPE IN）端子を接続する
④ 本機のDIGITAL OPTICAL IN端子とFR-155A/155 の DIGITAL OUT 端子を接続する
⑤ 本機のDIGITAL OPTICAL OUT端子とFR-155A/155 の DIGITAL IN 端子を接続する

- マイクやヘッドホンの接続については 22 ページをご覧ください。
- DIGITAL 入力切り換えスイッチは OPT 側にしてください。

接続する

お使いのパソコンにあわせて Windows/Macintosh を切り換える

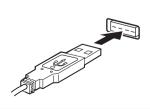
本機は、Windows/Macintosh のいずれか一方で使用できます。
お使いのパソコンにあわせて、本機底面の WIN/MAC 切り換えスイッチを切り換えてください。

ご注意

もし、設定をまちがえたままパソコンに接続したときは、必ず**下記の操作**をしてください。

WIN/MAC 設定をまちがえたり、もう一方に設定しなおすときは

① パソコンから、USB ケーブルを抜く

② WIN/MAC 切り換えスイッチを設定しなおす

③ USB ケーブルをパソコンに接続する

パソコンと接続する

① 付属のUSBケーブルのAタイプのジャック（▭）を、パソコンに接続する

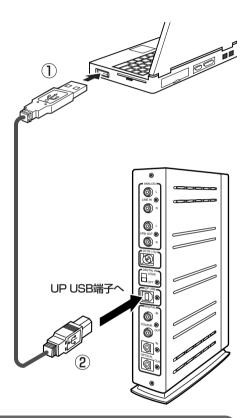
② Bタイプのジャック（◻）を、本機のUSB端子に接続する

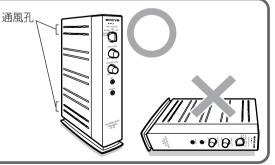
ヒント

- パソコン側にUSB端子が2つ以上あるときは、どの端子に接続しても構いません。
- Aタイプのジャックを、お手持ちのUSBハブ（集線器）に接続することもできます。

ご注意

- USBケーブルを抜き差しするときは、接続しているオーディオ機器（FR-155A/155、アンプ内蔵スピーカーなど）の音量を下げてから行ってください。
- ノートパソコンをお使いの場合、USB端子への給電が充分でないために、本機を認識しないことがあります。こうしたときは、別売の専用ACアダプター（型番AD-0002）をお使いください。

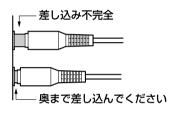
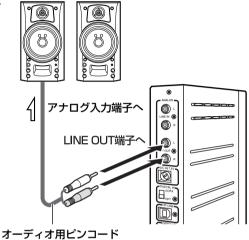
イラストは一例です。
USB端子の位置や個数はパソコンによって異なります。

タテ置きにしてお使いください

本機の側面には通風孔があります。
ヨコ置きにして通風口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。
必ず、タテ置きにしてお使いください。

接続する（FR-155A/155以外のオーディオ機器を接続する）

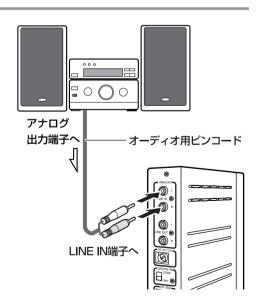
USB ケーブル以外を接続するときは、接続する機器の電源を切ってから行ってください。

アンプ内蔵スピーカーと接続する

ONKYO 製 GX-70AX などのアンプ内蔵スピーカーを接続します。

接続が不完全だと、雑音の原因になります。

オーディオシステムと接続する

付属のオーディオ用ピンコードを使うことで、お手持ちのオーディオシステムと接続できます。
プラグと端子の色が同じになるようにして、奥までしっかりと差し込んでください。
接続が不完全だと、雑音の原因になります。

- オーディオ用ピンコードは、スピーカーコードなどと束ねないでください。音質低下の原因になります。
- レコードプレーヤーを接続するときは、フォノイコライザーを仲介するか、フォノイコライザー内蔵のレコードプレーヤーをお使いください。

接続する（FR-155A/155以外のオーディオ機器を接続する）

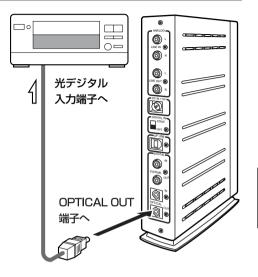
MD レコーダーや DAT などのデジタル録音機器と接続する

付属の光デジタルケーブルを使うことで、MDなどにデジタル録音できます。

① 保護キャップを取り外す

この端子を使用しないときは、必ずキャップを付けておいてください。

② オーディオ用光ケーブルを接続する

市販の同軸ケーブルでCOAXIAL OUT端子に接続することもできます。

CD プレーヤーなどのデジタル機器と接続する

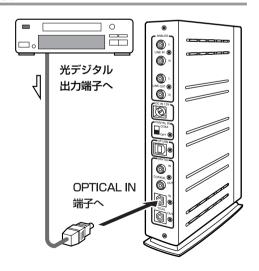
市販の光デジタルケーブルを使うことで、お手持ちの CD プレーヤーなどと接続できます。

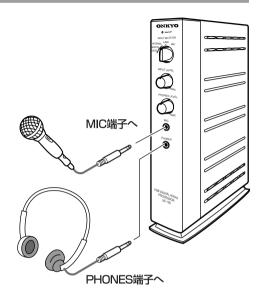
① 保護キャップを取り外す

この端子を使用しないときは、必ずキャップを付けておいてください。

② オーディオ用光ケーブルを接続する

③ デジタル入力（DIGITAL IN）切り換えスイッチを「OPT」側にする

市販の同軸ケーブルで COAXIAL IN 端子に接続することもできます。このときは、デジタル入力切り換えスイッチを「COAX」側にします。

マイクやヘッドホンを接続する

マイク（モノラル、ミニプラグ）やヘッドホン（ステレオ、ミニプラグ）を接続するときは、スピーカーの音量を下げてから行ってください。
ヘッドホンの音量は、PHONES LEVEL つまみで調節できます。

♪音のエチケット
楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。
特に静かな夜間には、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

FR-155A/155をお使いの方に

本機と、お手持ちのFR-155A/155を組み合わせることで、多彩な録音/再生が可能になります。

まず、はじめに　操作の前に以下のことをご確認ください。

① 本機とパソコンおよびFR-155A/155の接続が正しく完了していることを確認してください。（➔17 ～ 19ページ）

② 接続したパソコンの設定をしてください

Windowsの場合（➔27～32ページ）
Macintoshの場合（➔33～35ページ）

③ サウンド編集ソフトをパソコンにインストールしてください

Windowsの場合
「CarryOn Music」のセットアップ（➔別冊CarryOn Music取扱説明書）
「DigiOnSound Light」のインストール（➔38、39ページ）
Macintoshの場合
「Peak LE」のインストール（➔46、47ページ）

こんなことができます

以下のことができます。
操作のしかたは24、25ページをご覧ください。

● パソコンの音楽ファイルを、FR-155A/155で聞く

音楽ファイルをプレーヤーソフトで再生します。

● パソコンのCD-ROMドライブに入れた音楽CDを、FR-155A/155で聞く

音楽CDをプレーヤーソフトで再生します。
「CarryOn Music」でCDDB^{2}からCD情報を取得することができます。

● パソコンで再生する音楽に、マイクミキシング（カラオケ）する

プレーヤーソフトで音楽を再生し、マイクの声をミキシングします。
ミキシングした曲を、FR-155A/155のMDに録音することができます。

● FR-155A/155でCDを再生して、パソコンに録音する（アナログ録音）

CDを再生し、サウンド編集ソフトでパソコンに録音します。
録音した曲に、サウンド編集ソフトでエフェクト（音質効果）をかけることができます。

● FR-155A/155でCDを再生して、パソコンに録音する（デジタル録音）

CDを再生し、サウンド編集ソフトでパソコンに録音します。

● パソコンの音楽ファイルを、FR-155A/155のMDに録音する（アナログ録音）

音楽ファイルをプレーヤーソフトで再生し、MDに録音します。

● パソコンの音楽ファイルを、FR-155A/155のMDに録音する（デジタル録音）

音楽ファイルをプレーヤーソフトで再生し、MDに録音します。

パソコンの音楽ファイルを、FR-155A/155 で聞く

① 本機の INPUT SELECTOR スイッチを LINE に切り換える

② FR-155A/155のOTHER INPUTSボタンを（くり返し）押して、CD-R（または TAPE）を表示させる

本機を接続している端子にあわせて選んでください。

③ パソコンのプレーヤーソフトで音楽ファイルを再生する

Windows の場合は、別冊 CarryOn Music 取扱説明書 28 ページの「録音した曲を再生する」の操作をしてください。Macintosh の場合は、本書 35 ページの「AIFF ファイルを再生する」の操作をしてください。

パソコンの CD-ROM ドライブに入れた音楽 CD を、FR-155A/155 で聞く

① 本機の INPUT SELECTOR スイッチを LINE に切り換える

② FR-155A/155のOTHER INPUTSボタンを（くり返し）押して、CD-R（または TAPE）を表示させる

本機を接続している端子にあわせて選んでください。

③ パソコンのプレーヤーソフトで音楽 CD を再生する

Windows の場合は、別冊 CarryOn Music 取扱説明書 11 ページの操作をしてください。
Macintosh の場合は、本書 35 ページの「音楽 CD を再生する」の操作をしてください。

パソコンで再生する音楽に、マイクミキシング（カラオケ）する

① 本機にマイクを接続する

② 本機の INPUT SELECTOR スイッチを MIC に切り換える

③ FR-155A/155のOTHER INPUTSボタンを（くり返し）押して、CD-R（または TAPE）を表示させる

本機を接続している端子にあわせて選んでください。

④ パソコンのプレーヤーソフトで、音楽ファイルや音楽 CD を再生する

前項の手順③を参照してください。

⑤ マイクで歌う

マイクミキシングした曲を、FR-155A/155 の MD に録音することができます。

1）上記手順③のあと、FR-155A/155 の● REC ボタンを押す。

2）FR-155A/155 の MD 側の▶/❚❚ボタンを押す。

3）上記手順④以降を行う。

FR-155A/155 で CD を再生して、パソコンに録音する（アナログ録音）

① 本機の INPUT SELECTOR スイッチを LINE に切り換える

② FR-155A/155 の CD/MD ボタンを押して、CD に切り換える

③ サウンド編集ソフトで録音する

Windowsの場合は、別冊CarryOn Music取扱説明書24ページの「他の機器から録音する」の操作をしてください。

ご注意：手順6、7は、次のように操作してください。

6. FR-155A/155のCD側の▶/❚❚ボタンを押して再生を始め、レベルインジケーターを見ながら本機のINPUT LEVELつまみで録音レベルを調整します。調整が終わったら、CDの再生を止めます。

7. [❚❚]をクリックして録音を開始し、FR-155A/155のCD側の▶/❚❚ボタンを押して再生を始めます。

Macintoshの場合は、本書48ページの「LINE入力やマイクのアナログ音声をパソコンに録音する」の手順②〜⑬の操作をしてください。

FR-155A/155でCDを再生して、パソコンに録音する（デジタル録音）

① 本機のINPUT SELECTORスイッチをINTERNALに切り換える

② サウンド編集ソフトで録音する

Windowsの場合は、別冊CarryOn Music取扱説明書「他の機器から録音する」24ページの操作をしてください。

ご注意：デジタル録音の場合、録音レベルの調整は不要なため、手順6はとばしてください。

また、手順7はこのように操作してください。

7. [❚❚]をクリックして録音を開始し、FR-155A/155のCD側の▶/❚❚ボタンを押して再生を始めます。

Macintoshの場合は、本書51ページの「CDなどのデジタル音声をパソコンに録音する」の手順②〜④の操作をしてください。

パソコンの音楽ファイルを、FR-155A/155のMDに録音する（アナログ録音）

① 本機のINPUT SELECTORスイッチをLINEに切り換える

② FR-155A/155のOTHER INPUTSボタンを（くり返し）押して、CD-R（またはTAPE）を表示させる

本機を接続している端子にあわせて選んでください。

③ FR-155A/155の● RECボタンを押す

④ パソコンのプレーヤーソフトで音楽ファイルを再生する

Windowsの場合は、別冊CarryOn Music取扱説明書28ページの「録音した曲を再生する」の操作をしてください。Macintoshの場合は、本書35ページの「AIFFファイルを再生する」の操作をしてください。

⑤ FR-155A/155のMD側の▶/❚❚ボタンを押す

MDの録音操作については、FR-155A/155の取扱説明書を参照ください。

⑥ 録音を終えたら、FR-155A/155のMD側の⏏ボタンを押す

パソコンの音楽ファイルを、FR-155A/155のMDに録音する（デジタル録音）

① 本機のINPUT SELECTORスイッチをLINEに切り換える

② FR-155A/155のOTHER INPUTSボタンを（くり返し）押して、DIGITALを表示させる

③〜⑥は、上記アナログ録音の場合と同じ手順で操作してください。

パソコンの設定をする Win Mac

お使いのパソコンにあわせて設定してください。
設定が済んだら、音楽 CD などを再生してみて、正しく設定できたか試してみましょう。

Windows をお使いの場合

- ドライバのインストール（➔27 ページ）
- ドライバのインストールを確認する（➔28 ページ）
- オーディオデバイスを確認する（➔29 ページ）
- ボリュームコントロールの使いかた（➔30 ページ）
- 音楽 CD を再生するための設定をする（➔31 ページ）
- 音楽 CD を再生する（➔32 ページ）
- WAVE ファイルを再生する（➔32 ページ）

Macintosh をお使いの場合

- デバイスを確認する（➔33 ページ）
- オーディオデバイスを確認する（➔33 ページ）
- 入出力を USB オーディオに設定する（➔34 ページ）
- 音楽 CD を再生する（➔35 ページ）
- AIFF ファイルを再生する（➔35 ページ）

付属 CD-ROM には
各種ソフトウェアおよびチュートリアルで使用するサンプルファイルなどが含まれています。

用語解説

ドライバとは?
パソコンで周辺機器を利用するために組み込まれるソフトウェアのこと。デバイスドライバともいいます。

デバイスとは?
パソコンの周辺機器全般を意味します。

ドライバのインストール

① パソコンの電源を入れる

起動していることを確認してください。

② USB ケーブルを接続する

UP（動作確認）インジケーターが数回点滅したあと、点灯します。点灯しないときは、もう一度接続してください。

「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます

③ CD-ROMドライブに、Windowsのシステム CD-ROM をセットする

④ 画面の指示に従って、ドライバをインストールする

自動的に、「USB 互換デバイス」「USB オーディオ」の順に読み込まれます。

自動的にドライバが読み込まれていく

ご注意

- ドライバは通常、手順①、②の操作で自動的にインストールされます。
  万一「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されないときは、USBケーブルを接続したまま、次の操作をしてください。
  ①「マイコンピュータ」を右クリックして、「プロパティ」をクリックする。
  ②「デバイスマネージャ」タブをクリックする。
  ③「更新」をクリックする。
  「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されますので、画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。
- Windows98のバージョンによっては、USBケーブルを、パソコンの他のUSB端子に差し替えると、ドライバの再インストールを要求されることがあります。この場合は、「キャンセル」をクリックして、ドライバインストール時のUSB端子につなぎ直すか、手順②～④ に従って、もう一度ドライバをインストールしてください。

パソコンの設定をする　Win

ドライバのインストールを確認する

本機を接続した状態で、

① 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリックする

② 「システム」アイコンをダブルクリックする

③ Windows2000をお使いの場合のみ、「ハードウェア」をクリックする

④ 「デバイスマネージャ」をクリックする

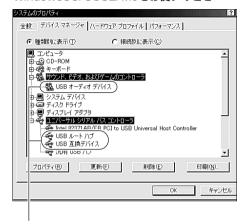
⑤ ダイアログボックスが、次のようになっていることを確認する

- **サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ**の下の階層に**USBオーディオデバイス（USB Audio Device）**があります。
- **ユニバーサルシリアルバスコントローラ**の下の階層に**USB ルートハブ（USB Root Hub）、USB 互換デバイス（USB 複合デバイス）（USB Compatible Device）**があります。

ヒント

● 「USBオーディオデバイス」、「USBルートハブ」、「USB互換デバイス（USB複合デバイス）」が表示されていない場合は、「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」または「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」をダブルクリックして、下の階層を表示させてください。

● ユニバーサルシリアルバスコントローラの欄が「不明なデバイス」になっているときは、USBケーブルをいったん抜き、もう一度接続して、認識させてください。

Windows98/98SE/Meをお使いのとき

インストールされているのを確認する

Windows2000をお使いのとき

インストールされているのを確認する

オーディオデバイスを確認する

① 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリックする

② 「マルチメディア」(または「サウンドとマルチメディア」)アイコンをダブルクリックする

③ 「オーディオ」タブをクリックする

④ 「再生」(または「音の再生」)と「録音」が「USBオーディオデバイス」になっていることを確認する

⑤ 「OK」をクリックする

USBオーディオでは、録音側の音量設定はハードウェアで行うため、が点灯しませんが、問題ではありません。

ご注意

USBケーブルを接続してすぐに「マルチメディア」→「オーディオ」ウィンドウを開くと、優先するデバイスがUSBオーディオデバイスにならないことがあります。接続後はしばらく時間をおいてからウィンドウを開き、確認してください。USBケーブルを接続しなおすときは、「マルチメディア」→「オーディオ」ウィンドウを閉じてから行ってください。

Windows98/98SEをお使いのとき

確認したら、クリックしてウィンドウを閉じる

Windows2000/Meをお使いのとき

確認したら、クリックしてウィンドウを閉じる

パソコンの設定をする Win

ボリュームコントロールの使いかた

タスクバーの アイコンをダブルクリックする

ボリュームコントロールパネルが表示されます。
「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「ボリュームコントロール」をクリックしても、表示されます。

① バランス

左右の出力バランスを変更するときに使います。

本機のMIC（マイク）入力はモノラルのため、バランスの調節は不要です。

② 音量スライダー

音量を最大（上へスライド）にしてください。

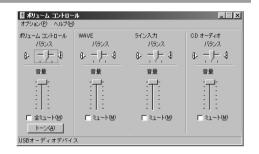
ご注意

音量が最大になっていないと、再生したときに音が出ません。
音量の調節は、接続しているオーディオ機器側で行ってください。

③ ミュート

再生中の音声を消すときに使います。

タスクバーに を表示させるには

● Windows98/98SEのとき
「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「マルチメディア」→「オーディオ」をクリックし、「音量の調節をタスクバーに ......」にチェックマークを入れます。
● Windows2000/Meのとき
「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「サウンドとマルチメディア」→「サウンド」をクリックし、「タスクバーにボリュームコントロールを ......」にチェックマークを入れます。

音楽CDを再生するための設定をする

Windows98/98SEをお使いのとき

本機を接続した状態で、

① 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリックする

② 「マルチメディア」アイコンをダブルクリックして、「音楽CD」タブをクリックする

③ 音楽CDを再生するCD-ROMドライブを選ぶ

④ 「このCD-ROMデバイスで……」にチェックマークを入れる

⑤ 「OK」をクリックする

ご注意

- お使いのCD-ROMドライブがデジタル出力に対応していないときは、「このCD-ROMデバイスで……」にチェックマークを入れられません。
- 「このCD-ROMデバイスで……」にチェックマークを入れられないときは、USBケーブルの接続をもう一度確認してください。

Windows2000/Meをお使いのとき

本機を接続した状態で、

① 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「CDプレーヤー」をクリックする

② 「オプション」→「基本設定」をクリックする

③ 「オーディオの詳細」をクリックする

④ 「CDプレーヤー」を、音楽CDを再生するためのドライブに設定する

⑤ 「OK」をクリックする

パソコンの設定をする Win

音楽CDを再生する

① CD-ROMドライブに音楽CDをセットする

② 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「CDプレーヤー」(Windows Meの場合は「Windows Media Player」)をクリックする

③ 「トラック」から好みの曲を選び、「▶」をクリックする

選んだ曲が再生されます。

用語解説

WAVEファイルとは?
Windowsで標準的な音楽ファイルの形式で、WAVファイルともいいます。
音声データをサンプリングして、パソコン用のデータとして保存したファイルのことです。

Windows 98/98 SEをお使いのとき

クリックして曲を選び、「▶」をクリックすると、再生が始まる

Windows 2000をお使いのとき

クリックして曲を選び、「▷」をクリックすると、再生が始まる

WAVEファイルを再生する

① CD-ROMドライブに付属CD-ROMをセットする

② 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「Windows Media Player」をクリックする

③ 「ファイル」→「開く」をクリックし、「参照」をクリックする

「開く」ダイアログボックスから、CD-ROMを選択します。

ご参考:Media Player 7をお使いの場合は、「参照」をクリックする必要はありません。「開く」をクリックすると、「ファイルを開く」ダイアログボックスが表示されます。

④ CD-ROMドライブのSample Waveフォルダを開き、「Sample1.wav」→「開く」をクリックする

自動的にWAVEファイルが再生されます。

デバイスを確認する

① Macintosh の電源を入れる

起動していることを確認してください。

② USB ケーブルを接続する

UP（動作確認）インジケーターが数回点滅したあと、点灯します。（点灯しないときは、もう一度やり直してください）

③ アップルメニューから「Apple システム・プロフィール」をクリックする

④ 「デバイスとボリューム」タブをクリックする

⑤ 「オーディオ（USB Digital Audio Processor）」と表示しているのを確認する

オーディオデバイスを確認する

① アップルメニューから「コントロールパネル」→「サウンド」をクリックする

② 「入力」「出力」がそれぞれ「USB オーディオ」になっていることを確認する

「USB オーディオ」と表示されない場合は

- システムソフトウェアのバージョンが対応していない可能性があります。バージョンを確認してアップデートを行ってください（➜15ページ）。
- 動作環境を満たしているときは、USB ケーブルをいったん抜き、もう一度接続して、本機を認識させてください。

クリックして、「USBオーディオ」と表示しているのを確認する

クリックして、「USBオーディオ」と表示しているのを確認する

パソコンの設定をする Mac

入出力をUSBオーディオに設定する

Quick Time Playerが開いているときは設定できません。終了させてから設定してください。

① アップルメニューから「コントロールパネル」→「サウンド」をクリックする

② 画面左側の「入力」をクリックしたあと、右の欄の「USBオーディオ」をクリックする

ご注意

「出力装置を通して音をならす」にはチェックマークを入れないでください。

③ 画面左側の「出力」をクリックしたあと、右の欄の「USBオーディオ」をクリックする

④ 音量スライダーを最大（右いっぱい）にしてください。

ご注意

音量の調節は、接続しているオーディオ機器側で行ってください。

クリックし、「USBオーディオ」をクリックして選択する

チェックマークが入っているときは外す

クリックし、「USBオーディオ」をクリックして選択する

音楽CDを再生する

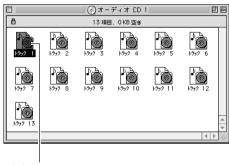
① CD-ROMドライブに音楽CDをセットする

② アップルメニューから「コントロールパネル」→「サウンド」をクリックする

③ 画面左側の「入力」をクリックしたあと、右の欄の「内蔵CD」をクリックする

④ ウィンドウを閉じる

⑤ 音楽CDのアイコンをダブルクリックする

⑥ 好みの曲（トラック）をダブルクリックする

選んだ曲が再生されます。

ダブルクリックすると、曲の再生が始まる

Quick Timeコントロールの設定を「自動再生」にしておくと、セットするだけで音楽CDが再生されます。

AIFFファイルを再生する

① CD-ROMドライブに付属CD-ROMをセットする

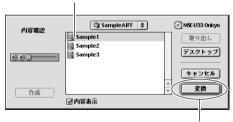
② 「Quick Time Player」アイコンをダブルクリックする

③ 「ファイル」メニューから「ムービーを開く」をクリックする

④ 付属CD-ROMのSample AIFFフォルダの「Sample1」をクリックし、「変換」ボタンをクリックする

⑤ Quick Time Playerの「▶」をクリックする

AIFFファイルが再生されます。

付属CD-ROMからサンプルファイルを選択

クリックして変換する

用語解説

AIFFファイルとは?

Apple社が開発した、Macintoshで標準的な音楽ファイルの形式。

高品位の楽器データやサンプリングサウンドを保存することができます。

Windowsで録音・再生する (Win)

録音時のご注意：

CD並みの音質（サンプリングレート44.1kHz、16ビット、ステレオ）で録音するには、WAVEファイルで1分あたり約10MB、MP3やWMAファイルで約1MBの容量が必要です。

一般に、パソコンのシステムを安定して使うには、ハードディスクの空き容量が100MB必要といわれています。

録音するときは、ハードディスクに充分な空きがあることを確認してから録音を始めてください。

ご注意

- 録音/再生中にINPUT SELECTORスイッチを切り換えると、システムが不安定になることがあります。
- INPUT SELECTORスイッチを切り換えた場合、実際に動作するまでに、少し時間がかかります。
- 録音・再生時は、パソコンのCPUに大きな負荷がかかります。特に録音時は、音切れ・音飛びを防ぐために、他のアプリケーションを終了してから、録音されることをおすすめします。
- INPUT LEVELつまみは、アナログ入力（MIC/LINE）に対してのみ有効です。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

用語解説

WAVファイルとは?

Windowsで標準的な音楽ファイルの形式。WAVEファイルと同じ。

音声データをサンプリングして、パソコン用のデータとして保存したファイルのことです。

WMA（Windows Media Audio）ファイルとは?

Microsoft社が開発した音楽ファイルの圧縮フォーマットのひとつ。

音楽CD並みの音質と、デジタル著作権を主張できることが特長になっています。

付属ソフトウェアのご紹介

■デジタルオーディオソフト「CarryOn Music」(Windows 版)

CarryOn Musicのメインウィンドウ

●音楽ファイルの作成･管理を手軽に行える統合オーディオソフトです。
簡単操作で、音楽CDから、話題のMP3ファイルがダイレクトに作成できるだけでなく、WAV･WMAへのエンコードにも対応。高速･高音質のMP3圧縮エンジンの搭載により、通常の録音時間より短い時間で変換できます。

●録音した曲は、ミュージックライブラリ機能で一括管理。以前から持っていた音楽ファイルも、これからはスマートに管理できます。
プレイリスト機能を使えば、好みの曲順で聞けるだけでなく、アーティスト別･アルバム別などに登録して、その日の気分で聞き分けることも可能です。

●CDDB2(CD情報データベース)にも対応。インターネットにアクセスできる環境があれば、音楽CDのタイトル情報を検索･取得できます。もちろん、入力は日本語でも英語でも可能です。

より詳しくは 「CarryOn Music取扱説明書」をご覧ください

■サウンド波形編集ソフト「DigiOnSound Light」(Windows 版)

「DigiOnSound Light」は、高音質･高機能の波形編集ソフト。
多彩なエフェクト(音質効果)はもちろんのこと、サウンド6トラック、動画プレビュー、音楽CDの直接読み込み、高音質サンプリングなど、ハイスペックな機能を満載しています。

♪ヒント

● 音楽CDから手軽にMP3ファイルがつくりたい方、ハードディスクにたまった種々な音楽ファイルをスマートに管理したい方は「CarryOn Music」をお使いください。
● 音楽に多彩なエフェクト(音質効果)をかけたい方、趣味でDTM(デスクトップミュージック)を楽しみたい方は「DigiOnSound Light」をお使いください。

用語解説

MP3(MPEG Audio Layer3)ファイルとは?
音楽ファイルの圧縮フォーマットのひとつ。
Windowsの代表的な音楽ファイル形式WAVEなどと比較すると、ファイル容量が1/10程度に圧縮され、音質もほとんど劣化しないのが特長といわれています。

「DigiOnSound Light」をインストールする

準備:アプリケーションが起動しているときは、すべて終了させてください。

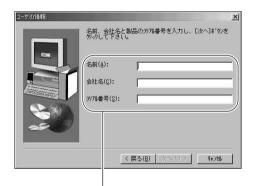
① CD-ROM ドライブに、付属 CD-ROM をセットする

② 「マイコンピュータ」→ CD-ROM ドライブ→「DigiOn」→「Sound」を順にダブルクリックして開く

③ 「Setup.exe」をダブルクリックする

自動的にインストールの準備が始まります。画面の指示に従って操作してください。

④ 「ユーザの情報」画面に、シリアル番号「DGON-003-763357-9FW8G5」を半角大文字で入力する

「次へ」をクリックして、作業を続けます。

名前、会社名、シリアル番号を入力して、次の画面に進む（会社名は空白でもかまいません）

デスクトップにショートカットを置きたくないときは、チェックマークを外す

⑤ 「完了」をクリックする

以上で、インストールは完了です。

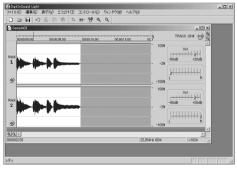
クリック

「DigiOnSound Light」で、音楽ファイルを再生する

① 「DigiOnSound Light」を起動する

② 「ファイル」→「開く」をクリックする

③ 再生するファイルを選び、「開く」をクリックする

曲の波形が表示されます。

④ 「コントローラー」ウィンドウの「▶」をクリックする

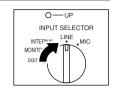
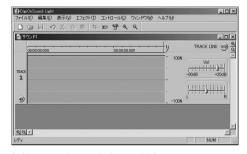
再生が始まります。

途中で再生を止めるには

「■」をクリックします。

LINE 入力やマイクのアナログ音声をパソコンに録音する

① ソース（音源）にあわせて、INPUT SELECTORスイッチを「LINE」または「MIC」に切り換える

UPインジケーターが点滅→点灯します。（詳しくは下記の「ご注意」をご覧ください）

② 「DigiOnSound Light」を起動する

新規マルチトラックウィンドウが開かないときは、「ファイル」→「新規作成」をクリックします。

新規マルチトラックウィンドウ

③ 「ファイル」→「環境設定」→「サウンド形式」をクリックし、次のように設定する

- サンプリング周波数：44.100Hz
- 量子化ビット数：16 ビット
- ステレオ

ステレオ / モノラルは「録音」タブの「チャンネル」で選択します。

44.100Hz、16ビットに設定して

クリック

ご注意

INPUT SELECTORスイッチをデジタル（INTERNALまたはMONITOR）からアナログ（LINEまたはMIC）に切り換えると、UP インジケーターは次のように動作します。

1. 短い2回点滅を、数回くり返す。
2. 1 秒周期の点滅を 10 数回くり返す。
3. 点灯する。

まちがえて切り換えたときは、**1.** または **3.** の状態のときに元に戻してください。**2.** の状態で切り換えると、パソコンが停止して操作を受け付けなくなることがあります（ハングアップ）。

④ **ソースを再生して、「コントローラー」ウィンドウの「レベルモニタ」を見ながら、INPUT LEVEL つまみで録音レベルを調節する**

レベルの調節を終えたら、ソースの再生を止めます。

ご注意

●レベルモニタにチェックマークを入れたあと、INPUT SELECTOR スイッチを切り換えないでください。
●録音中に、INPUT SELECTOR スイッチでデジタル / アナログを切り換えないでください。
●サウンド編集ソフトによっては、USBの音声入出力をサポートしていない場合があります。あらかじめ開発元に確認してください。
●録音レベルは、INPUT LEVEL つまみで調整しますので、「コントローラー」ウィンドウの「ボリューム」での調整はできません。

チェックマークを入れると、録音レベルを表示する

⑤ **(録音) をクリックし、ソースを再生する**

録音が始まります。

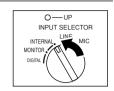
⑥ **録音を終えたら、(録音停止) をクリックする**

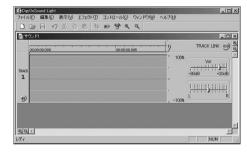
■ **WAVE ファイルとのミキシングについて**

「LINE」「MIC」の音声と同時にWAVEファイルなどのサウンドファイルを再生し、後面のLINE OUT端子から出力することができます。
「LINE」「MIC」の音量は INPUT LEVEL つまみで調整してください。

CDなどのデジタル音声をパソコンに録音する

① ソース（音源）にあわせて、INPUT SELECTORスイッチを「INTERNAL」に切り換える

UPインジケーターが点滅→点灯します。（詳しくは40ページの「ご注意」をご覧ください）

② 使用している端子にあわせて、後面のデジタル入力（DIGITAL IN）切り換えスイッチを切り換える

③「DigiOnSound Light」を起動する

新規マルチトラックウィンドウが開かないときは、「ファイル」→「新規作成」をクリックします。

新規マルチトラックウィンドウ

④「ファイル」→「環境設定」→「サウンド形式」をクリックし、次のように設定する

- サンプリング周波数：44.100Hz
- 量子化ビット数：16 ビット
- ステレオ

ステレオ / モノラルは「録音」タブの「チャンネル」で選択します。

44.100Hz、16ビットに設定して

クリック

⑤ ●（録音）をクリックし、ソースを再生する

録音が始まります。

⑥ 録音を終えたら、■（録音停止）をクリックする

ご注意

- ●著作権を保護されたデジタル音声信号は、後面の DIGITAL IN 端子から入力されません。アナログ（LINE）入力に切り換えて録音してください。
- ●サウンド編集ソフトによっては、USBの音声入出力をサポートしていない場合があります。あらかじめ開発元に確認してください。
- ●デジタル音声の録音時は、INPUT LEVELつまみで録音レベルを調整する必要はありません。

■デジタルインモニター機能について

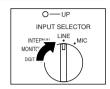
DIGITAL IN 端子からの録音音声を聞くときは、INPUT SELECTOR スイッチを「MONITOR」に切り換えます。
「MONITOR」に切り換えているあいだ、録音音声以外はすべてミュート（消音）されます。
解除するには、INPUT SELECTOR スイッチを「INTERNAL」に戻します。

パソコンからMDなどにデジタル音声を録音する

① INPUT SELECTORスイッチを「LINE」に切り換える

UPインジケーターが点滅→点灯します。（詳しくは40ページの「ご注意」をご覧ください）

② MDレコーダーなどのデジタル録音機器で録音を始め、パソコン内の音声ファイルを再生する

ご注意

- サウンド編集ソフトでデジタル音声を出力するときは、必ずINPUT SELECTORスイッチを「LINE」に切り換えてください。
  INPUT SELECTORスイッチが「INTERNAL」または「MONITOR」になっている場合、DIGITAL OUT端子からは、DIGITAL IN端子への入力信号がそのままモニター出力されています。（サンプリング周波数：44.1kHz）
- LINE入力やマイクからのアナログ音声は、そのままではDIGITAL OUT端子から出力されません。いったんWindowsのWAVEファイルに保存してから録音してください。
- デジタル音声の録音時は、INPUT LEVELつまみで録音レベルを調整する必要はありません。

Macintoshで録音・再生する Mac

付属CD-ROMのサウンド編集ソフト「Peak LE」を使って、実際に録音してみましょう。

録音時のご注意：

CD並みの音質（サンプリングレート44.1kHz、16ビット、ステレオ）で録音するには、AIFFファイルで1分あたり約10MB、MP3ファイルで約1MBの容量が必要です。
一般に、Mac OSを安定して使うには、ハードディスクの空き容量が100MB必要といわれています。
録音するときは、ハードディスクに充分な空きがあることを確認してから録音を始めてください。

ご注意

- 録音/再生中にINPUT SELECTORスイッチを切り換えると、システムが不安定になることがあります。
- INPUT SELECTORスイッチを切り換えた場合、実際に動作するまでに、少し時間がかかります。
- 録音・再生時は、パソコンのCPUに大きな負荷がかかります。特に録音時は、音切れ・音飛びを防ぐために、他のアプリケーションを終了してから、録音されることをおすすめします。
- INPUT LEVELつまみは、アナログ入力（MIC/LINE）に対してのみ有効です。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

付属ソフトウェアのご紹介

■サウンド波形編集ソフト「Peak LE」（Macintosh 版）

「Peak LE」は、米国バイアス社のサウンド波形編集ソフト。
デジタルサウンドの取り込みをはじめ、多彩なソース（音源）から、AIFF・MP3・Shockwave・Real Audioなどへの変換が可能です。
パソコンへの録音（ハードディスクレコーディング）だけでなく、カット・ペースト・フェードイン・各種エフェクト処理などが容易に行えます。
無制限のアンドゥ（やり直し）機能を搭載しているため、DTM制作時の試行錯誤にも安心です。

「Peak LE」をインストールする

準備 ●アプリケーション(ウィルスチェックソフトを含む)が起動しているときは、すべて終了させてください。
●機能拡張マネージャで「MacOS基本」セットにして、再起動してください。

① CD-ROM ドライブに、付属 CD-ROM をセットする

② CD-ROM アイコン→「Peak 2.1」を順にダブルクリックして開く

③「Install Peak LE 2.10c」をダブルクリックする

自動的にインストールの準備が始まります。画面の指示に従ってインストールしてください。

④ 初回起動時に、シリアル番号「BPL-1120680040」を入力する

名前、所属、シリアル番号を入力する

⑤「Register」をクリックする

以上で、インストールは完了です。

ご注意

● 「メモリが不足しています」のメッセージが出たときは、すべてのアプリケーションを終了して、再起動してください。
● 日本語入力ソフト「ATOK」をお使いの場合は、正しくシリアル番号を入力しても登録できないことがあります。こうしたときは、「ことえり」に切り換えて、もう一度入力してください。

「Peak LE」で、音楽ファイルを再生する

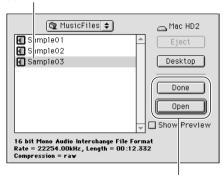
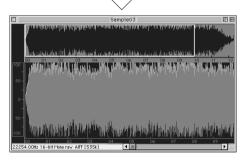
① **仮想メモリをオフにして、「Peak LE」を起動する**

仮想メモリ「オン」のまま起動すると、警告メッセージが出ます。

② **「File」→「Open...」をクリックする**

③ **再生するファイルを選び、「Open」→「Done」をクリックする**

曲の波形が表示されます。

再生するファイルをクリックして

「Open」→「Done」を順にクリック

④ **「▶」をクリックする**

再生が始まります。

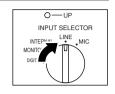
途中で再生を止めるには

「■」をクリックします。

Macintoshで録音・再生する Mac

LINE 入力やマイクのアナログ音声をパソコンに録音する

① **ソース（音源）にあわせて、INPUT SELECTORスイッチを「LINE」または「MIC」に切り換える**

UPインジケーターが点滅→点灯します。（詳しくは40ページの「ご注意」をご覧ください）

② **仮想メモリを「オフ」にして、「Peak LE」を起動する**

仮想メモリ「オン」のまま起動すると、警告メッセージが出ます。

③ **「Audio」→「Sound Out」から、「USB オーディオ」を選ぶ**

ご注意

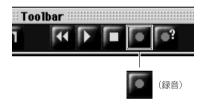
「USBオーディオ」の表示がないときは、いったんUSBケーブルを抜き、もう一度接続してください。

④ **ツールバーの（録音）をクリックする**

（録音）

ツールバーが表示されていないときは、Windowメニューの「Toolbar」にチェックマークをつけます。

⑤ **「Record」画面の（録音準備）をクリックする**

（録音準備）

⑦ 「Record Settings」画面の「Monitor」のチェックを外し、「Device and Sample Format...」をクリックする

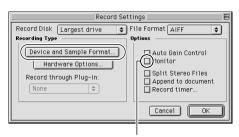
ご注意

「Monitor」のチェックは、必ず外してお使いください。

チェックマークが入っているときは外す

⑧ ポップアップメニューから「ソース」を選び、図のように設定する

ご注意

「録音中は切る」以外を選ぶと、録音できないことがあります。
「録音中は切る」にしていてもLINE OUTから音声は出力されます。

「ソース」を選択

⑨ ポップアップメニューから「サンプル」を選び、図のように設定して、「OK」をクリックする

サンプリングレートは、「レート」右側のポップアップメニューから選びます。

「サンプル」を選択

サンプリングレート

⑩ ソースを再生して、INPUT LEVELつまみで録音レベルを調整する

レベルの調整を終えたら、ソースの再生を止めます。

⑪ ■（録音）をクリックし、ソースを再生する

録音が始まります。

⑫ 録音を終えたら、■（録音停止）をクリックする

⑬ 録音した曲（AIFFファイル）を保存する

曲の波形が表示される

ご注意

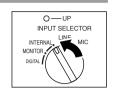
- 録音中に、INPUT SELECTORスイッチでデジタル/アナログを切り換えないでください。
- 波形を表示させるには、「Recording Settings」画面の「Auto Gain Control」にチェックを入れます。
- 録音中にエコーがかかるような場合は、コントロールパネル「サウンド」の入力設定の「出力装置を使用して音を出す」のチェックマークを外してください。

Peak LEの詳しい説明は、付属CD-ROMの「Peak 2.1」フォルダにあります。

- Peak 2.0-Japanese.pdf（日本語マニュアル）
- Peak 2.10 Addendum-J.pdf（日本語追補マニュアル）

CDなどのデジタル音声をパソコンに録音する

① INPUT SELECTORスイッチを「INTERNAL」に切り換える

UPインジケーターが点滅→点灯します。（詳しくは40ページの「ご注意」をご覧ください）

② 使用している端子にあわせて、後面のデジタル入力（DIGITAL IN）切り換えスイッチを切り換える

③ 仮想メモリを「オフ」にして、「Peak LE」を起動する

仮想メモリ「オン」のまま起動すると、警告メッセージが出ます。

④ 48～50ページの手順③～⑬を行い、録音する

●デジタル音声録音時は、録音レベルの調節（手順⑩）は不要です。

ご注意

- 録音中に、INPUT SELECTORスイッチでデジタル/アナログを切り換えないでください。
- 著作権を保護されたデジタル音声信号は、後面のDIGITAL IN端子から入力されません。アナログ（LINE）入力に切り換えて録音してください。
- 波形を表示させるには、「Recording Settings」画面の「Auto Gain Control」にチェックを入れます。
- 録音中にエコーがかかるような場合は、コントロールパネル「サウンド」の入力設定の「出力装置を使用して音を出す」のチェックマークを外してください。

■デジタルインモニター機能について

DIGITAL IN端子からの録音音声を聞くときは、INPUT SELECTORスイッチを「MONITOR」に切り換えます。

「MONITOR」に切り換えているあいだ、録音音声以外はすべてミュート（消音）されます。

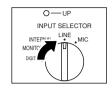
解除するには、INPUT SELECTORスイッチを「INTERNAL」に戻します。

パソコンからMDなどにデジタル音声を録音する

① INPUT SELECTORスイッチを「LINE」に切り換える

UPインジケーターが点滅→点灯します。(詳しくは40ページの「ご注意」をご覧ください)

② MDレコーダーなどのデジタル録音機器で録音を始め、パソコン内の音声ファイルを再生する

ご注意

- サウンド編集ソフトでデジタル音声を出力するときは、必ずINPUT SELECTORスイッチを「LINE」に切り換えてください。
  INPUT SELECTORスイッチが「INTERNAL」または「MONITOR」になっている場合、DIGITAL OUT端子からは、DIGITAL IN端子への入力信号がそのままモニター出力されています。(サンプリング周波数:44.1kHz)
- LINE入力やマイクからのアナログ音声は、そのままではDIGITAL OUT端子から出力されません。いったんMacintoshのAIFFファイルなどに保存してから録音してください。
- デジタル音声の録音時は、INPUT LEVELつまみで録音レベルを調整する必要はありません。
- 波形を表示させるには、「Recording Settings」画面の「Auto Gain Control」にチェックを入れます。
- 録音中にエコーがかかるような場合は、コントロールパネル「サウンド」の入力設定の「出力装置を使用して音を出す」のチェックマークを外してください。

本機の入力切り換えについて Win Mac

INPUT SELECTOR（入力切り換え）スイッチのはたらきについて

■ INPUT SELECTORの位置とハードディスク録音で入力される音声

入力で使用する入力端子に合わせてセレクタの位置を表1のように切り換えます。

表1

セレクタの位置 ＼ 入力端子		アナログ		デジタル
		MIC IN	LINE IN	(COAX/OPT)
アナログ	MIC	○		
	LINE		○	
デジタル	INTERNAL			○*1
	MONITOR			○*1

＊1 デジタル入力では「INTERNAL」、「MONITOR」いずれの位置でも入力できますが本体後ろのリアパネルで「COAX」、「OPT」の切り換えが必要です。

デジタル入力の時は「INTERNAL」と「MONITOR」を切り換えることによって、LINE OUT/PHONESでのモニターできるソースが選べます。

■ INPUT SELECTORの位置と外部接続機器へ出力される音声

録音の際には入力する音声に従ってセレクタを切り換えることが必要です。（表1参照）
そのときにどの音がモニターされているかを表2で表しています。

表2

セレクタの位置 ＼ 出力先		アナログ LINE OUT&PHONES	デジタル (COAX/OPT)
アナログ	MIC	MIC INとパソコンの音声	パソコンの音声
	LINE	LINE INとパソコンの音声	パソコンの音声
デジタル	INTERNAL	LINE INとパソコンの音声	COAXまたはOPT
	MONITOR	COAXまたはOPT	COAXまたはOPT

パソコンの音声：WAVE、MP3などのサウンドファイル、CD-ROMドライブの音楽CD

LINE入力やマイクからのアナログ音声は、そのままではDIGITAL OUT端子から出力されません。いったんWindowsのWAVEファイルやMacintoshのAIFFファイルなどに保存してから録音してください。

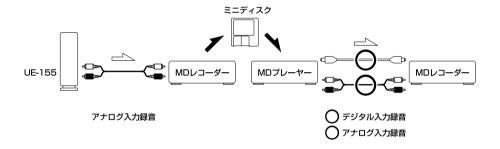
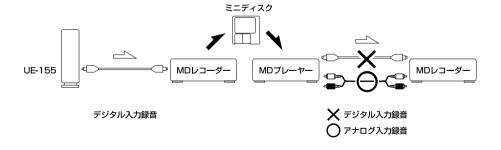
コピーガードシステムについて Win Mac

コピーガードシステムについて

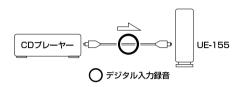
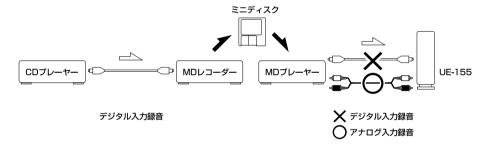
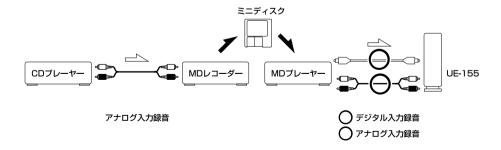
■ 本機のコピーガードシステムについて

本機のデジタル入力はコピーガードシステムによって保護されております。
このシステムはデジタル信号をデジタル信号のまま録音することが可能ですが、後述の制限事項がございます。
また、この制限事項は著作権の保護を目的としており、著作権を侵害するような動作を制限するために設けられております。

- 本機のデジタル出力からMDやDATなどにデジタル録音した信号は、デジタル信号のまま他のメディアに録音することはできません。

1. 本機に記録されている音声データをいったんアナログ信号として録音したMDからデジタル信号としてMDレコーダーに入力することは可能です。

2. 本機からデジタル信号のまま録音されたMDの音声データは、MDプレーヤーへデジタル信号のまま入力することはできません。入力する場合はアナログ信号として入力してください。

コピーガードシステムについて Win Mac

- CDやMD、DATなどデジタル信号で音声データを記録しているメディアから本機のデジタル入力端子に直接デジタル信号を入力することができます。
  ただし、一度デジタル信号からデジタル信号のまま録音された音声データを本機に入力した場合、録音はできません。また、本機を通してのモニタリングもできません。

1. CDから直接デジタル信号で入力された音声データは、本機へデジタル入力することができ、録音・モニタリングも可能です。

2. CDからデジタル信号のまま録音されたMDの音声データは、本機へデジタル信号のまま入力することはできません。入力する場合はアナログ信号として入力してください。

3. CDに記録されている音声データをいったんアナログ信号として録音したMDからデジタル信号として本機に入力することは可能です。

オンラインマニュアルを使う

付属のCD-ROMに入っているオンラインマニュアルはPDF形式のファイルですので、これを読むためにはまずAcrobat Readerがインストールされていることをご確認ください。
インストールされていない場合は、まず下記の「■ Acrobat Readerのインストール」にしたがって操作を進めてください。

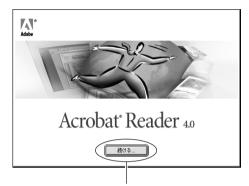
■ Acrobat Reader のインストール

① CD-ROMドライブに、付属CD-ROMをセットする

② CD-ROMを開く

③ 「Adobe」フォルダを開く

④ 「ar405jpn.exe」（Macの場合は「Japanese Reader Installer」）をダブルクリックする

⑤ 画面の指示にしたがって、インストールする

Acrobat Readerのインストール開始画面。
クリックすると、インストールが始まる

■ オンラインマニュアルの起動方法

付属CD-ROMを開き、menu.htmlファイルをダブルクリックします。
または、付属CD-ROMから目的のマニュアルファイルを選択してダブルクリックします。

■ Acrobat Readerの基本操作

メニューバーとツールバー

オンラインマニュアルを起動すると、画面の上部に図のような画面が表示されます。

① 先頭ページを開く

② 前のページに戻る

③ 次のページへ進む

④ 最後のページを開く

⑤ ページを拡大表示する

⑤ ① ② ③ ④

その他

メニューバーから「ヘルプ」を選び、「Reader オンラインガイド」を選択します。
操作方法を詳しくお知りになりたい場合は、このオンラインガイドをご利用ください。

故障?と思ったら

症状	原因	処置
機器を認識しない。	• 接続が不完全。	• 取扱説明書の「接続する」を参照して、USBケーブルを通じて機器をパソコンに確実に接続してください。
	• 接続しているハブに問題がある。	• ハブを経由して接続している場合は、ハブが動作しているかどうかをハブの取扱説明書にしたがって確認してください。
	• WIN/MACスイッチの設定間違い。	• USBケーブルを抜き、お使いのパソコンに合わせてスイッチを正しく設定し、再度USBケーブルを接続してください。
	• デバイスの一部を認識しない。	• USBケーブルを抜き、10秒ほど待って再接続してみてください。システムが不安定になっている場合は再起動を試してください。
アナログ/デジタル切り換え時にパソコンが不安定になる。	• 音声出力を行ったまま切り換えを行った。	• OSの仕様上、音声出力を行ったまま切り換えを行うと、OSが不安定になる可能性があります。 アナログ/デジタルを切り換える時は、音声出力を停止してください。（アナログ/デジタル切り換えとは、INPUT SELECTORをMIC/LINE（アナログ）とINTERNAL/MONITOR（デジタル）を切り換えることを示します。）
	• 録音レベルモニターを表示させたまま切り換えを行った。	• アナログ/デジタルを切り換える時は、必ず録音レベルモニター機能を停止させてから切り換えを行ってください。
音声が出ない。	• ミュートされている。	（Windows） • タスクバーのアイコンをダブルクリックして、ボリュームコントロールを開きミュートのチェックをはずします。 （Mac） • コントロールパネルから「サウンド」を開き、「消音」のチェックをはずします。
	• 出力レベルが小さい。	（Windows） • タスクバーのアイコンをダブルクリックして、ボリュームコントロールを開きボリュームをすべて最大値に設定します。 （Mac） • コントロールパネルから「サウンド」を開き音量を適切な値に設定してください。
	• 他の音声出力デバイスが使用されている。	（Windows） • コントロールパネルから「マルチメディアのプロパティ」を開き、「優先するデバイス」として「USBオーディオデバイス」を選択してください。 （Mac） • コントロールパネルから「サウンド」を開き、「出力」の「サウンド出力装置の選択」から「USBオーディオ」を選択してください。

故障?と思ったら

症状	原因	処置
音声が出ない。 （つづき）	• INPUT SELECTORがMONITORになっている。 • 外部アンプまたはスピーカーに問題がある。	• INPUT SELECTORがMONITORになっているとDIGITAL IN端子に入力された信号が出力され、アナログ入力およびパソコンの音声は出力されません。ご使用になる入力にあわせてINPUT SELECTORをINTERNAL/LINE/MICに切り換えてご使用ください。 • LINE OUT端子から外部アンプやスピーカーに確実に接続されているかどうか確認してください。外部機器に問題がない場合はケーブルをご確認ください。
内蔵スピーカーから音声が出ない。	• USBオーディオデバイスが優先されている。	• USBオーディオデバイスが優先されているため、内蔵スピーカーからは音声が出力されません。内蔵スピーカーから一時的に音声を出力させるためには、本機からUSBケーブルを抜いてください。内蔵スピーカーのご使用後はUSBケーブルを再度接続してください。
ヘッドホンが聞こえない。	• ヘッドホンボリュームが下がっている。	• ヘッドホンレベル調整つまみで音量を調整できます。最適な音量になるようつまみを調整してください。 それでも聞こえない場合、「音が出ない」の項を参照してください。
左右の音量バランスがかたよっている。	• バランスが中央に設定されていない。	（Windows） • タスクバーのアイコンをダブルクリックして、ボリュームコントロールを開きバランスを調整してください。 （Mac） • MACではバランス調整には対応していません。 外部スピーカー項目を参照してください。 （MacOS9.0.4以前）
	• 外部アンプまたはスピーカーに問題がある。	• 接続している外部アンプやスピーカーのバランスを確認してください。
CD-ROMドライブからの音声が出力されない。	• CD-ROMドライブがデジタル音声出力に対応していない。	• システムがCD-ROMドライブからのデジタル音声ストリームに対応していない場合、USB経由ではCD-ROMドライブから出力された音声は出力されません。このような場合は、CD-ROMドライブの音声出力（ヘッドホン出力等）をライン入力に接続し、音量を適当な値に調節してください。
ゲームのBGMが出力されない。	• BGMにCD出力が使用されている。	• 「CD-ROMドライブからの音声が出力されない」の項目を参照してください。

症状	原因	処置
マイク音声が入力できない。	• マイクの接続が不完全。 • マイクの適合性に問題がある。 • 入力レベルが下がっている。 • INPUT SELECTORがMICになっていない。	• マイクを確実に接続してください。 • ミニプラグのマイクをご使用ください。 • INPUT LEVELつまみで入力レベルを調整してください。 • INPUT SELECTORをMICに合わせてください。
ライン音声が入力できない。	• ライン入力の接続が不完全。 • 外部機器から音声が出力されていない。 • ライン入力ボリュームが小さい。 • レコードプレーヤーを直接接続している。 • INPUT SELECTORの設定違い。	• 外部からライン入力に確実に接続してください。外部機器に問題がない場合はケーブルをご確認ください。 • 外部機器から音声が出力されているかどうか確認してください。 • INPUT LEVELつまみを適切な位置に調整してください。 • レコードプレーヤーを本機に直接接続することはできません。お手持ちのレコードプレーヤーおよびカートリッジに合わせたフォノイコライザーを通して接続してください。 • INPUT SELECTORをLINEに設定してください。INTERNALでは、LINE OUT、PHONESには出力されますが録音できません。
デジタル出力が外部機器に入力されない。	• INPUT SELECTORの設定違い。 • 外部機器のサンプリング周波数が適合していない。 • 外部機器との接続に問題がある。	• INPUT SELECTORを53ページの「本機の入力切り換えについて」を参考に正しく設定し直してください。 • デジタル出力のサンプリング周波数は44.1kHzです。お手持ちの機器の取扱説明書を参照して、出力サンプリング周波数に対応しているかどうかお確かめください。 • 外部機器と確実に接続されているかどうかお確かめください。外部機器に問題がない場合はケーブルをお確かめください。
パソコンの音声がデジタル出力されない。	• INPUT SELECTORの設定違い。	• INPUT SELECTORをLINEに設定してください。「デジタル出力が外部機器に入力されない」の項を参照してください。

故障?と思ったら

症状	原因	処置	
録音できない。	• 他の音声入力デバイスが使用されている 。	（Windows） • コントロールパネルの「マルチメディアのプロパティ」を開き「録音」の「優先するデバイス」から「USBオーディオデバイス」を選択してください。 それでも録音できない時は「優先するデバイスのみを使用する」のチェックボックスにチェックを入れてください。	（Mac） • コントロールパネルから「サウンド」を開き、「入力」の「サウンド入力装置の選択」から「USBオーディオ」を選択してください。
デジタル入力信号が録音できない。	• INPUT SELECTORの設定違い。 • 入力信号がコピーガードされている。 • 入力端子が異なっている。 • 外部機器との接続に問題がある。	• INPUT SELECTORをINTERNALあるいはMONITORに設定してください。 • 本機のデジタル入力はコピーガードシステムにより保護されているため、コピー不可に設定されているデジタル信号は録音できません。詳しくは55、56ページを参照してください。 • デジタル入力は光（OPT）あるいは同軸（COAX）入力のいずれかを選択できます。お使いになる端子にあわせてデジタル入力切り換えスイッチを設定してください。 • 外部機器と確実に接続されているかどうかお確かめください。外部機器に問題がない場合は、ケーブルをお確かめください。	
音が途切れる。	• 音声出力、入力中に負荷のかかる作業を行っている。 • 音声出力、入力中に他のUSB機器を抜き差しした。 • CPUの処理が再生に追いついていない。	• 特に録音をされる場合には、CPUに負担のかかる作業は控えてください。 • 音声の再生・録音中に他のUSB機器を抜き差しすると、音声が途切れることがあります。 • CPUが推奨スペックを満たしていない場合は、期待した性能を発揮できない場合があります。また、CPUが推奨スペックを満たしている場合でもCPUが非常に高負荷の状態である場合には音が途切れることがあります。この場合は、他のアプリケーションをすべて終了させてください。	
録音中にエコーがかかる。（Mac）	• 「出力装置を通して音をならす」にチェックマークが入っている。	• チェックマークをはずしてください。	

症状	原因	処置
雑音が多い。	• テレビなど強い磁気を帯びたものの近くに置いている。 • マイクから雑音が入力されている。 • 各入出力端子の接続が不完全。	• テレビなどから十分に離して置いてください。 • マイクから雑音を拾うことがありますので、マイクを使用しないときは、INPUT SELECTORをMIC以外に設定してください。 • 本書16、22ページを参照して確実に接続してください。
動作確認インジケーターが速く点滅(0.25秒周期)し、動作しない。	• 外部のノイズなどによりマイクロコンピューターが誤動作した。	• USBケーブルを抜き、10秒程度待ってから、再度USBケーブルを接続してください。2、3回繰り返しても同じ症状が出る場合、および頻繁に起こる場合は、巻末記載のカスタマーグループへご相談ください。

製品の故障により、正常に録音ができなかったことによって生じた損害（CDのレンタル料等）については保証対象になりませんので、大事な録音をされるときには、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、USBケーブルを抜いて、約5秒後に改めてUSBケーブルを接続してください。

主な仕様

型番	UE-155
形式	USBデジタルオーディオプロセッサー
接続方式	USB (Universal Serial Bus Ver. 1.1)
サンプリング周波数	
デジタルIN	32/44.1/48 kHz 対応
デジタルOUT	44.1 kHz
周波数特性	0.3 Hz～20 kHz (＋0/－0.5 dB、LINE OUT)
SN比	100 dB (A-Filter)
全高調波歪率	0.002 % (1 kHz、0 dB)
出力レベル	1.0 Vrms
ライン入力レベル	250 mVrms
マイク入力感度	5.0 mVrms
電源	USB供給、別売DC7.5V（専用ACアダプター）
消費電流	400 mA
外形寸法（幅×高さ×奥行）	50 x 216.2 x 166　mm
質量	600 g

※　仕様および外観は予告なく変更することがあります。

修理について

■ 保証書について

この製品には、保証書を別途添付しております。所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。保証期間はお買い上げ日より1年間です。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときには、商品と保証書をご持参ご提示の上、お買い上げの販売店または当社カスタマーグループにご依頼ください。
詳細は保証書をご覧ください。

■ 修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名（UE-155）」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しく、お買い上げの販売店または当社カスタマーグループまでご連絡ください。

■ 保証期間経過後の修理は

販売店または当社カスタマーグループにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

電話でのお問い合わせ：072-831-8111

サポート時間：月～金曜日
（祝日および当社指定休日を除く）
10:00～12:00、
13:00～17:00

FAXでのお問い合わせ：072-833-5222

手紙でのお問い合わせ、修理品のご送付：
〒572-8540
大阪府寝屋川市日新町2番1号
オンキヨー株式会社
カスタマーグループ宛

E-mailでのお問い合わせ：vox@onkyo.co.jp

製品に関する最新情報などは：
ホームページアドレス
http://www.onkyo.co.jp/
をご参照ください。

ご購入された時にご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日 ：　　　　年　　月　　日

ご購入店名 ：
Tel.

メモ：

DigiOnSoundシリアルNo.
DGON-003-763357-9FW8G5

Peak LEシリアルNo.
BPL-1120680040

UE-155のお客様登録用シリアルNoは、本体底面に記載されています。